

最優秀賞

富山県

射水市立新湊南部中学校 二年 加藤 歩 乃

身近な消防団

私が八才の頃、私の母は射水市女性消防団に入団しました。祖父も当時地元塚原消防団の分団長として活動していたので、私にとって「消防団」とは幼いころから身近にあるものでした。

しかし、實際何をしているのかということを知ったのは、ずい分大きくなってからでした。

祖父は男性団員として実際火災が起きた時には仕事を抜けて現場に駆けつけ、地域の防災訓練ではいざという時に備えて、放水訓練などを行っています。

一方、母の活動は「消火活動」よりも「火災予防活動」が中心で、地域の火災予防や地域防災などに関する広報・啓発を行っています。女性の視点に立ち、女性特有の優しさ、きめ細かさを活かして、地域の方々の安心・安全を確保することを目的とし、活動を行っています。

活動しているところを見ても、積極的に声をかけ、いつも笑顔で地域の方々々と接している印象があります。制服姿もかっこよく、少し偉い人にも見えます。

でも母は家では普通の、少し変わっています。が明るく優しいただのお母さんです。消防に関する知識を持たず、入団してからいろいろ

ろ研修を受けて身に付けたそうです。特別に選ばれた人になるのではなくて、地域を守りたい、地域に何か役に立つことを少しでもやってみようと思った人が進んで行動しているのだと思います。誰にでもチャレンジ精神があれば、消防団の仲間入りをすることが出来るのだと思います。

そんな活動の中で団員同士が仲良くなり、楽しく活動が続けられると思います。祖父も消防団の仲間と仲良く、引退した後もずっと交流を続けています。

母の活動ノートに『ボランティア活動は金持ちにはなれないかもしれないが、心は豊かになる』とメモが書いてありました。自分も中学校に入ってからあいさつ運動や清掃活動など、いろいろなボランティア活動に参加しました。作業中や活動中は大変だと思ふことがあります。終わった後に「今日はありがとう」とか「助かったよ」と声をかけられると、「やってよかった」と思う経験が多くあります。そういうことがやりがいとなって頑張っていけるのではないかと思います。

この作文を通して私は改めて「消防団は地域を守る、かっこいいヒーローだ」と思いました。母や祖父のように地域を守るために働き、心の豊かな人に私はなりたいです。

